

S N S

氷上中学校 一年 荻野 愛理

「相手の気持ちを考えましょう」どんな人でも一度はこの言葉を耳にしたことがあると思う。「相手の事を思いやる」「自分が言われて嫌なことは言わない」子供のころから言い聞かされてきた当たり前の事だ。特に私は三人兄弟の長女だったため小さい頃から嫌というほど聞かされてきた。かく言う私も完璧にできているかと言われれば自信はない。しかし、それがうまくできていない人も世の中には一定数存在する。

この夏、オリンピックで日本はたくさんのメダルを獲得し大きな盛り上がりを見せた。その一方でこんな信じられないネットの記事を目にした。それはあと一步メダルに届かなかった選手に向けられた誹謗中傷の数々をまとめたものだった。どの選手も全力で挑み、おしくも敗れ、涙を流した選手だ。最初はどうしてこんなことになったのか私は誹謗中傷が起こったことが悲しかったし、そんな書き込みをする人がいるということが信じられずハンマーで頭を殴られたような衝撃を受け呆然とその場に固まった。

悲しかったので事実かどうか自分で調べていくとどうやらそれは、心ないSNSのユーザーが匿名をいいことに、敗戦の責任を追及するような数々の攻撃的な言葉を好き放題に投稿していったせいで起こったようだった。これまでもSNSで起こった誹謗中傷は度々ニュースになっていたが、私自身はSNSをしていなので「悪口みたいなものかな」くらいの認識でそこまでピンときていなかった。だが実際に目の当たりにした誹謗中傷は批判や悪口を通り越し、恐怖を感じるようなとてもじゃないが軽視できるようなものではなかった。ずらりとならんだ誹謗中傷からは命の危険を感じた。四年に一度のオリンピックということや、メダルへの期待もありあんなに応援されていたのに選手が負けてしまうととたんに手のひらを返して好き放題に誹謗中傷をする。人間の恐ろしい闇の部分の少し覗いた気がした。正直今でも、そんなことをする人がいるというのはなかなか信じられないし信じたくない。そもそもの話、悪口は「良くないこと」だ。カッとなって書き込んでしまうこともあるかもしれないが少しは罪悪感だってあると思う。それでも今回実際に記事になるような規模で誹謗中傷が起こったというのが同じ人として悲しい。

大勢の人の前では孤立しないようにみんなに合わせているが一人になると匿名で神様にでもなったかのように相手がやり返せない状況で有名人や今注目されている人に誹謗中傷して楽しんでいる人、透明人間のように相手に気づかれないのをいいことにいたずらをする人、実際にSNSにはこんな人が存在する。

こんな人達のために頑張っている人達が傷つけられる世界は間違っていると思う。

そもそも、匿名は匿名じゃない。なぜなら裁判所をとおして管理者に問い合わせれば誰が書き込んだかなんて簡単に特定できるからだ。つまり匿名は匿名ではないし、神様でも透明人間でもないのだ。

わざわざ裁判所をとおし管理者に問い合わせなくても運営会社に問い合わせるなどして書いた本人を特定できる仕組みがあれば匿名で好き放題していた人達も自重すると思う。裁判所に代わって犯罪かどうかをチェックする運営会社には手間や責任を増やしてしまうがネット社会になっている現在ではこのような仕組みも必要だ。ネットやSNSに書き込む前にみんなが一度落ち着いて我慢する自制心を身につけてほしい。

世界にはたくさんの人がいて一生懸命に生きている。生きていけばたまには上手くいかず失敗してしまうこともあるだろう。たとえそんなことがあったとしても相手のことを思いやり、頑張った人には誹謗中傷ではなく称賛がえられる社会に変わっていくべきだと思う。